

2015 年度第 1 回 日本学連幹事会 資料

開催日時：2015 年（平成 27 年）6 月 6 日（土）

開催会場：中多屋旅館（茨城県東茨城郡）

資料 1	「アイプリオ社のスポンサー申請について」	議題 1
資料 2	「日本学連の新機軸事業について」	議題 5
資料 3	「2014 年度春インカレに関するアンケート結果 」	議題 6
資料 4	「インカレ一般クラス棲み分けについて 」	議題 10
資料 5	「活動報告書「日本学生オリエンテーリング連盟概説」について 」	議題 13

[資料 1]

アイプリオ社のスポンサー申請について

・はじめに

2014. 3、アイプリオ社の山本氏よりアイプリオ社の紹介と学連への支援の申し出が事務局に届きました。学連としてこの申し出を受け入れるのか断るのか、さらに話し合っ
て落としどころを探すのか（来年度あたりまでに？）を決める必要があります。

・学連の当初の対応（木村理事のメールより抜粋）

【進め方の提案】

この話は JOA を含めるのが三者に利益があると感じます。

アイプリオが公益法人 JOA にスポンサー料（寄付金）を支払う。

この公益法人に対するスポンサー料はアイプリオ社が全額損金扱いできるため
アイプリオ社にとって大きく節税が可能となる。

JOA はスポンサー料を日本学連に組織育成金として渡す。

日本学連は JOA の会員ですから、全く問題なし。

JOA には 10%程度の事務手数料を渡す必要はあります。

日本学連はアイプリオ社の広告を出す。

日本学連の後援大会のプログラムに広告掲載する。

大会ブースを設けるなどリクルート活動を補助する。

（個人情報流さない。広告・リクルート活動にとどめる）

大会ブースなどでリクルーティングできれば

あとは学生個人とアイプリオ社の関係で進めていただく。

こうして得た資金はインカレスプリントで不足する資金に充当する。

いかがでしょうか。

[資料1]

・アイプリオ社の回答、申し出

1. JOA を絡める件について

アイプリオ社では寄付金とする予定はなく広告費としてスポンサー料を損金計上する予定であるため JOA を交えるかはあまり問題ではない。しかし日本学連は JOA 会員であるためいずれはそちらともかかわりを持つことも考えているとのこと。

2. アイプリオ社の目的

学連を通しての新卒、第二新卒への採用募集、インターンシップの募集、ビッグデータの提供

3. アイプリオ社からの要望、確認(学連に求めること、可能か検討してほしいこと)

加盟員へのアンケート(専攻、語学スキル、海外経験の有無、オリエンテーリングを始めたきっかけ)、加盟員への働きかけ(大会会場での広報ブース設置の協力、加盟員へのブース参加呼びかけ)

むしろ学連がどこまで協力が可能か?具体的にスポンサー料はどのくらい欲しいのか?を確認してほしい。

※備考(直接は関係のない山本氏の意見)

スポンサーを今後取っていく上での確かな提供資料として、また今後再び加盟員数の減少といった問題が起こった際に利用できるように、アンケートに書いたような加盟員のマクロなデータは収集しておくべきである。またスポンサーに限らず協賛企業様などに対してもだが、オリエンテーリング競技者(大会参加者)は軽視する、広告を見ても何の反応も示さない傾向がありそこは学連から変えていく努力をするべきではないか?

4. 参考資料: アイプリオ社の会社紹介(山本氏のメールより抜粋)

弊社は、米国ニューヨークに本社があるグローバルな金融情報の会社で、証券会社および上場企業にデータベース、システム、および調査分析サービスをご提供しています。日本国内では知名度が低いですが、グローバルに約1,200人ほどが働いている中堅企業です。日本国内では現在13名が働いている小規模なオフィスですが、大手信託銀行、大手証券会社と提携しており、急成長している会社です。最近巷では大塚家具における父娘の争いと委任状争奪戦がニュースになっておりますが、今回弊社は関わっていませんが、あのような状況で会社が投資家にお話をするのをお手伝いするのが、おそらく弊社と世間との係わり合いで一番分かりやすい例でしょう。

さて、弊社においてはビジネスが急拡大しており、新卒、第二新卒の採用、インターンシップを検討しておりますが、売り手市場の現状では、弊社のような知名度の低い会社は採用で大変苦労しております。対策をいろいろと考えていたところ、オリエンテーリ

[資料 1]

ング界においては、非常に優秀な学生が多くいらっしゃることを思い出し、ご連絡した次第です。

日本学連の新機軸事業について

筑波大学体育会オリエンテーリング部 4 年
第 34 回筑波大学オリエンテーリング大会実行委員長小柴 滉平
2015 年 6 月 6 日

1. はじめに

筑波大学体育会オリエンテーリング部（以下「本団体」という）は 2015 年 1 月 25 日に栃木県矢板市にて第 34 回筑波大学オリエンテーリング大会（以下「本大会」という）を開催しました。本大会で使用した新規の地図「矢板山苗代」は有限会社ヤマカワオーエンタープライズ（以下「YMOE 社」という）によって調査され、本団体は YMOE 社よりその地図を購入する形で大会を開催しました。この地図作成の事業費は日本学連により YMOE 社へ支払われており、「矢板山苗代」は日本学連が保有しています。

このような仕組みによって開催された大会（以下「新機軸事業」という）は、2013 年 9 月の第 34 回早大 OC 大会と 2013 年 11 月の千葉大・東工大オリエンテーリング大会に続き、本大会で 3 例目になります。新機軸事業がなければ、地図調査の経験が少ない本団体が 2015 年 1 月に栃木県矢板市にて大会を開催することはできませんでした。本大会を開催する機会をくださった日本学連の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

2. 新機軸事業における地元涉外

本大会の準備を進める中で、新機軸事業の「地元涉外」に関して以下 3 つの問題があると感じました。

- (1) 新機軸事業の地元涉外に関して、日本学連の取り決めが存在しない。
- (2) 地元涉外を競技会の開催者が行った場合、その経費（交通費など）を開催者が負担している。
- (3) 同様の場合、地図を保有するのは日本学連であるが、地元涉外が開催者の名義で行われる。

[資料 2]

ここでいう「地元渉外」は

- (1) テレイン周辺地区の区長へ挨拶に伺い、大会開催について承諾を頂く。
- (2) テレイン周辺住民へ大会開催や試走実施を地区の回覧で告知する。
- (3) テレイン周辺の住宅へ挨拶に伺い、大会開催の周知と理解を図る。

の 3 つを指します。また、本大会における地元渉外は山川克則氏に区長の方々の連絡先を教えていただいた以外はすべて本団体が行いました。

3. 本大会に際した地元渉外

新機軸事業における地元渉外の問題点について論じる前に、本大会に際して行った地元渉外の詳細を以下に記します。これらの地元渉外は本団体の名義で行い、交通費などの経費は本団体が負担しました。

また、本大会のテレインはこれまでにオリエンテーリングが行われたことがない地域であったため、慎重に渉外を進めました。この結果、地元の方々と良好な関係を築くことができ、本大会の開催だけでなく今後、継続的に「矢板山苗代」を利用していく上での下地を作ることができたと考えております。

(1) 区長への挨拶（大会 6 か月前）

2014 年 7 月 27 日（日）に「矢板山苗代」がまたがる境林地区、高塩地区、館ノ川地区及び山苗代地区の区長のご自宅に伺いました。事前に電話にて連絡を取り、話を聞いていただけることになりました。

当日は区長の方々に大会の実行計画書をお渡しして、この地区の山林で大会を開きたい旨をお伝えしたところ快諾していただきました。今後、試走会などで山林内に入る際は事前に連絡し、その旨を告知する書類を地区内の回覧にて回していただけることになりました。

(2) 回覧での告知（随時）

区長への挨拶から大会当日まで四度、地区内の回覧にて試走会などを告知する書類を

[資料 2]

回していただきました。事前に区長の方々に電話にて試走会などを行う旨を伝え、書類を郵送しました。郵送した日付は以下の通りです。

7月30日(水)、9月26日(金)、10月30日(木)、12月24日(水)

(3) テレイン周辺住宅への挨拶(大会2週間前)

2015年1月10日(土)に「矢板山苗代」周辺の住宅、会場からスタート地区まで、及びフィニッシュ地区から会場まで参加者が通る道沿いの住宅を一軒ずつ訪ね、大会開催や看板などの設置を伝えて回りました。留守もしくは訪問を断られた場合を除き、大会を開く旨を伝え、その詳細を記した資料を渡しました。

また、高塩地区と館ノ川地区の区長のご自宅にも伺い、大会開催について改めて説明しました。境林地区と山苗代地区の区長の方々には電話にて説明しました。

(4) その他の事前渉外

テレイン内に所在する住宅を訪問しました。住民の方々には敷地に立ち入らなければ大会を開いてよいと承諾を頂き、それらの敷地は地図上で立入禁止区域としました。また、テープ誘導の設置も快諾していただきました。

(5) 大会後の渉外

大会後には、地区長の方々へ御礼と大会が無事に終わったことを電話にてお伝えしました。境林地区の区長の方のみお時間を頂けたので、2月28日(土)にご自宅に伺い、大会についての簡単な報告と御礼をお伝えしました。また、今後は「矢板山苗代」の管理を日本学生オリエンテーリング連盟が行うことも併せてお伝えしました。

(6) 日本学連への報告

以上の地元渉外について詳細をまとめ、実際に使用した実行計画書や回覧用の書類などと併せて、日本学連の山川氏と渉外部の橋場良太氏にメールにて送付しました。

4. 地元渉外に関する問題とその対応

前述した地元渉外に関する問題点 3 点の詳細を以下に記します。詳細と併せてそれらの対応も提案しているので、これらに基づき日本学連には本件について検討していただき、新機軸事業の地元渉外に関して規則やガイドラインなど何かしらの形で取り決めを作成していただきければと思っております。

(1) 新機軸事業の地元渉外に関して、日本学連の取り決めが存在しない

新機軸事業に関する規約は「日本学生オリエンテーリング連盟の地図の運用に関する規約」が存在しますが、この規約では地図の作成や管理にのみ触れられており、地元渉外に関する取り決めは存在しません。先の第 34 回早大 OC 大会の地図「毘沙門山」と千葉大・東工大大会の地図「矢板山田ホタルの里」はいずれもリメイクでしたが、本大会や新機軸事業第 4 弾である KOLC 大会は新規の地図です。そのため、過去にテレイン周辺で地元渉外が行われたことはありません。また早大 OC 大会と千葉大・東工大大会では、地元渉外の少なくとも一部は日本学連と開催者が共同で行い、日本学連が経費を負担していたようですが、(2014 年度第 1 回日本学連幹事会【配布資料 1】より)、前述した通り本大会の地元渉外はすべて本団体が行い、それに関する日本学連との具体的な取り決めはありませんでした。

このように現状では、地元渉外について明文化された日本学連の取り決めはなく、その時々で形式を決めているように見受けられます。大会を無事に開催し、その後も継続的に利用していくには堅実な渉外が不可欠であり、それに関する取り決めが存在しないことには強い危機感を抱きます。新機軸事業の地図は開催者によらず日本学連が保有するのですから、その地元渉外を日本学連が責任を持ってコントロールすべきです。また、新機軸事業は大会を開催できなくなった大学クラブの再興を目的としたものであり、開催者となったクラブが地元渉外のノウハウを十分に持っているとは限らないため、開催者に地元渉外を一任するのは不安が残ります。以上のことを踏まえて、繰り返しになりますが、**新機軸事業の地元渉外に関して規則やガイドラインなど何かしらの形で取り決めを作成していただきたいです。**その取り決めの中では

[資料 2]

(1) 地元渉外を誰がどのように行うのか。

(日本学連が行うのか、開催者が行うのか、共同で行うのか)

(2) 地元渉外の実費は誰が負担するのか(後述)。

(3) 地元渉外は誰の名義で行うのか(後述)。

(4) 新規やリメイクなどの場合によって、(1)から(3)までの内容は変わるのか。

(5) 開催者が地元渉外を行う場合、どのような内容の渉外を行うべきなのか。

(6) 開催者が地元渉外を行う場合、日本学連と開催者はどのようなやり取りをするのか。

(7) 開催者が地元渉外を行う場合、開催者にとってどのような利点があるのか。

の 7 点に触れるべきです。

(5)の「どのような内容の渉外を行うべきなのか」と(6)の「日本学連と開催者はどのようなやり取りをするのか」とは、大会開催だけでなく継続的な利用を目指して、テレビン周辺住民の方々にどのような説明をしていくのか日本学連は開催者に伝え、その報告を開催者はどのような頻度や内容で行い、大会後に日本学連へ引き継ぐか決めておくべきだということです。また、開催者の大学クラブが地元渉外のノウハウを十分に持っていなかった場合は、日本学連が挨拶の仕方や回覧用書類の作り方なども併せて大学クラブへ伝えるのが良いかと思います。

(7)の「開催者にとってどのような利点があるのか」とは、本大会では本団体がすべての地元渉外を行ったにもかかわらず、今後「矢板山苗代」を利用する際にほかの団体と同様の費用を払う必要があり、何も利点がないので、今後は開催者にとって何かしらの利点を設けるべきではないかということです。

[資料 2]

(2) 地元渉外を競技会の開催者が行った場合、その経費（交通費など）を開催者が負担している

地元渉外には挨拶に伺う際の交通費や事前に連絡する際の通話代、回覧用書類の紙代、印刷代、郵送代などの費用が掛かります。これらは大会を開催するだけでなく、地図を継続的に利用可能とするために不可欠な経費です。第 34 回早大 00 大会と千葉大・東工大大会では、大学クラブと日本学連と共同で地元渉外を行った際の交通費など一部の経費は日本学連が負担していたようですが、本大会ではこれらの経費は本団体が負担しました（例外として、2014 年 7 月 9 日（水）に矢板市役所生涯学習課と会場の矢板市立川崎小学校に挨拶に伺った際は山川氏の車に同乗しました）。

日本学連が地元渉外を行う場合と同様に、**地元渉外を開催者が行う場合でもこれらの経費は地図を保有する日本学連が負担するべきではないでしょうか。**

(3) 地図を保有するのは日本学連であるが、地元渉外が開催者の名義で行われる

第 34 回早大 00 大会と千葉大・東工大大会では、大学クラブと日本学連の連名で行われていたようですが、本大会では本団体のみ名義で地元渉外を行っていました。大会前とその後で渉外を行う団体が変わると、テレイン周辺住民の方々の混乱を招く可能性があります。

混乱を避けるためにも、**地元渉外を日本学連が行うか、日本学連と開催者の共同で行うか、開催者のみで行う場合は日本学連が継続的に管理することをしっかりと周辺住民の方々に伝えた上で、名義を連名とする、といった対応を取るべきではないでしょうか。**

5. おわりに

新機軸事業は大会を開催できなくなった大学クラブの再興を図ることができる、非常に有意義な事業だと思っております。新機軸事業に関して、幹事会の皆様には地図作成の事業費の是非を問うだけに留まらず、取り決めを定めていくなど新機軸事業の適正を継続的に検討していただければ幸いです。制度面を整えることは新機軸事業に挑戦する

[資料 2]

ハードルを下げるだけでなく、大学クラブの大会運営面での盛り上がりや、ひいてはオリエンテーリングの発展につながるのではないのでしょうか。

以上

[資料 3]

2014 年度春インカレに関するアンケート結果

日本学連事業部

1. インカレ表彰式の短縮について

アンケート結果から 2014 年度春インカレの表彰式（写真撮影の時間は設けず表彰のみを短時間で行う）は好意的に受け止められたと考えてよいだろう。今後のインカレでも表彰式は表彰のみを行い、写真撮影等は後程設けられた時間・スペースで行う形式を採用、継続することに大きな問題はない。

回答合計:91



- ・このスピードでやってほしい。
- ・何かパネルの前で表彰するとか、もう少し表彰者がカッコよく見えるような、式典感があるような形になるとより良いと思う。
- ・表彰後の流れに迷う人が多くもっと短縮できたのではないか。その表彰直後で花束等の受け渡し場所があると良かった。
- ・インカレロング不参加のため比較できませんが、さっぱりしていて良かったと思います。
- ・時間が短縮されてよかったものの、なんとなくインカレの表彰感がなくてさびしかった。

[資料 3]

た。インカレの表彰式はどこか特別なイメージがあるので。

・雨で地面がぐちゃぐちゃだったため腰をつけて座ることができず足がしんどかった
のでそういう場合にも対応できるような場所でやってほしい。

・写真撮影だけでも欲しかった・花束贈呈、写真撮影の時間が短縮されたのは、表彰式、
閉会式の進行がスムーズになり、タイムキープもしやすくよかったと思う。ロングに比
較して、スムーズに進行し、表彰ごとの間延びがなくよかった。

・会場の盛り上がりは、以前のような“儀式”がなくとも表彰式としての盛り上がりは充
分に感じられた。しかし以前の“儀式”でみられたようなインカレ特有の異様なまでの熱
気は感じられなかった。チームメンバーの様々な思いの爆発するあの空気はインカレな
らではのものであったので、このままいい子ちゃんばかりになってインカレの表彰式がた
だの表彰式になってしまうのもつまらないと思う。

・写真撮影の場所を明確にしてほしい。もしくは、最初からそれ専用の場所をもうけて
おいてほしい

2. シード選手紹介について

2.1 シード選手パネルについて

比較的選手や作成者への負担が小さい一方で、せっかく作ってもらったパネルがイン
カレの中で有効活用されていないことから、パネルを作成する意義について疑問を感じ
ている選手がいるということがわかった。今後は選手から作ってもらったパネルをうま
く使っていくことが必要であると考えます。

[資料 3]

回答合計:12



問2 その他を選ばれた方はシード選手紹介パネル作製について感じたことを具体的に教えてください。

- ・やりたい人はやればいかなって思います
- ・見せるタイミングが開会式しかないのがさみしいです。あと処分を自分でしなければならないのも負担です。
- ・何のためのパネルなのかわからない。
- ・制作に関わっていません。
- ・面白かったです

2.2 シード選手紹介について

多くの選手が自身、もしくはクラブ員に負担を強いている現状が明らかとなった。インカレを盛り上げるためのシード選手紹介であるという意義は十分伝わっており、大半の選手には理解していただいているが、やはり重要なレース前に負担をかけるのは心苦しい。事業部がインカレオープニングムービーのようにシード選手をまとめて紹介するような動画を作ってもよいかもしれない。

[資料 3]



問4 その他を選ばれた方はシード選手紹介について感じたことを具体的に教えてください。

- ・紹介はあってもいいかなと思います。ただそれが脱ぐだけのイベントになるのはよくないかなと思いました。内輪に楽しんでも仕方ないので
- ・何のためのシード選手紹介なのかわからない。
- ・せっかくだからやってもいいと思った。
- ・動画は良かった。

問5 シード選手紹介への不満、改善を望む点、今後に向けた希望などあれば教えてください。

- ・負担を感じるのは事実ですが、インカレという大会作りにもしー役買っているのなら、やめるべきではないかなと思います。もうちょっと楽しんでできればいいのですが、何せ大事なレース前なもので…難しいです。
- ・シード選手になることによってインカレに向けて準備する時間を削られることが不満。
- ・他の選手のものを見るのは楽しいのでいいと思います。パネルは去年に比べてコンパクトになったので持ち帰りやすくてよかったです。ありがとうございました。

[資料 3]

- ・ネタが被らないように、被った時の対処を考えておいておくの良いと思う。
- ・寸劇はなしでも良いのではないかと思いました。ただ、選手紹介の動画は今後も継続していけばいいと思います。開会式の運営ありがとうございました。

[資料 4]

第 1 回幹事会資料

インカレー一般クラス棲み分けについて

文責：五味

0. 経緯

昨年度（H26 年度）第四回幹事会におけるインカレミドル B エリートの廃止に関する議論において一般クラスについての言及があり、インカレー一般クラスに参加する学生のモチベーションのために一般クラス A, B の棲み分けが必要であるという合意に至った。

詳しくは以下の流れである。

「A エリートになれなかった場合に一般クラスではモチベーションが保てないという主張はなぜか」

「インカレー一般クラスが易しすぎるという意見がある。選手権クラスにでられなかった時点で（上級者にとって）つまらないコースを走ることになる」

「一般 A 出走者がまとまって帰ってこられるよう易くなっている（A 出走者下層が完走できるようレベル付されている）」

「一般 B 出走者の増加によって A のレベル向上・モチベーション維持につながる」

「目安程度に B 出走のガイドラインをつくるようにする」

1. 一般クラス出走ガイドラインの目的（案）

- ①A クラス B クラスの存在意義明確化
- ②B クラス参加者の増加
- ③B クラスの広報・参加しやすい環境づくり
- ④A クラス難易度の向上

[資料 4]

2. 一般クラス出走ガイドライン概要（案）

①クラスの具体的意味の説明

これは必ず必要な内容であるとする。

A クラスが上級者コースであり、ある程度オリエンテーリングを行っている人のためのクラスであること。中級者クラスとして B クラスが存在すること。自身のレベルに合わせて積極的にクラスを選んで欲しいこと。

②A クラス出走の目安

レース結果等を用いて目安をつくることには問題もあると思う。（前回幹事会で出た言葉を使うのであれば「意識の格差」等）しかし、具体的な目安がなければこのガイドライン自体が形骸化する可能性が大きい。ルールとしてではなく、ガイドラインとしてなら明記していいように思う。目安案は要検討。

（案）

- ・各地区学連インカレ選手権クラスセレクションを完走できない者
- ・一年間に5レース以上出走し、完走した者

（③クラスの棲み分けが行われないことで生じる弊害）

これは明記の必要があるかわからないが、このことを知ってもらえばこのガイドラインの意義を理解しやすくなるのではないかと。

B クラス相当の者が確固たる意志なく A クラスに出走することで A クラスのコース難易度に影響が生じること。B クラス相当のものが A クラスに出走し、競技時間オーバーする際の競技者負担、運営負担。

以上に加えて、学連幹事長・各大学渉外を通じて、より自分に合ったクラスに出走するよう声

掛けを行ってもらおう。またこれはあくまでガイドラインである旨を周知する。

今回の幹事会で以上をたたき台に話し合い、いつまでにガイドラインを出すか（いつのインカレで具体的にガイドラインを意識してクラスを選んでもらうか）各大学にどのように話し合ってもらおうか、決めていきたい。

[資料 5]

活動報告書「日本学生オリエンテーリング連盟概説」について

2015 年 6 月 6 日 文責 高橋

1. 議案提案までの経緯

日本学連では、2年に1度活動報告書を発行しています。最近では、2014年10月に発行しました。今年度は発行年度ではありませんが、今年3月から4月にかけて2014年度日本学連幹事とインカレ実行委員長（秋・春）に原稿の執筆をお願いしており、すでにほぼすべての方から提出していただいたところです。

さて、その活動報告書には、冒頭に「日本学生オリエンテーリング連盟概説」というものが掲載されています。これは日本学連が発足から現在に至るまでの歴史について解説したものです。

この記事を見ていくと、2005年を最後に「概説」が止まっています。しかし、2006年以降の日本学連の活動を振り返ってみると、インカレの不成立や開催地変更、インカレミドルの開催方式変更（予選・決勝方式→選手権 A・B→選手権 1本化）、またインカレスプリントの開催決定など、今の日本学連を語るうえで重要な出来事がありました。その歴史を記録に残すために、活動報告書が発行されているのだと思いますが、「概説」として残すことで、日本学連について全く知らない人にも、その活動について、きちんと知ってもらうことができるのではと思います。

この件については、日本学連の事情にとっても詳しい、とある大学のOBからご指摘いただきました。メーリングリスト上などでは話し合われていない案件ですが、議事録がとられている公の場で一度お話ししたいと思い、今回提案させていただきました。

2. 今回相談したいこと

- ・ 2006年以降の部分について書くべきか

過去の活動について、総括してわかりやすく書かれたものが他にないので、今後の活動の参考にしている意味であったほうがよいだろう、と思います。

- ・ 書くならば誰にその執筆をお願いするか、いつ出すか

長年にわたって日本学連に関わっておられる方をお願いしたいと考えています。

また次回の活動報告書発行の際に、その中に掲載できればよいだろうと思います。ただ執筆に時間がかかるとお思いますので、執筆依頼は早めにしたいと考えています。

[資料 5]

3. 終わりに

活動報告書の原稿については、今年度の幹事の方にも書いていただくこととなりますので、ご承知おきください。また、来年度は発行年度ですので、来年1月の幹事会のあたりで、その発行のために、「活動報告書作成委員長」を決めていただきたいと思います。（今回は私が部内から指摘を受けるまで、誰もそれに気づかず、メール上で慌てて決めた経緯があります。）